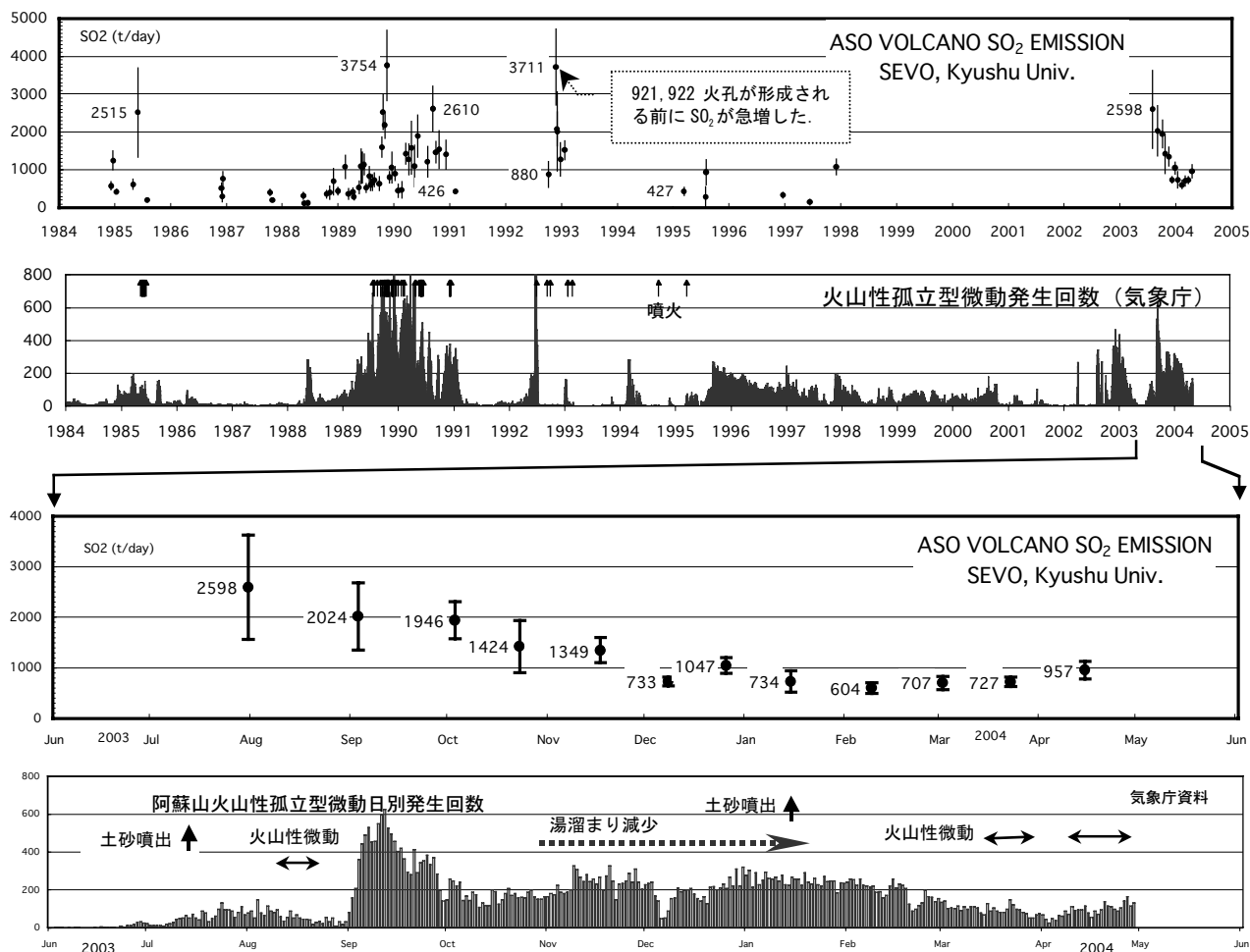


# 阿蘇火山の二酸化硫黄放出量

九州大学地震火山観測研究センター\*



阿蘇火山の二酸化硫黄放出量は、火山活動と密接に関連して変化している。噴火期間中は 2000 ton/day を超えるが、静穏期には 500 ton/day 以下である。また二酸化硫黄放出量の変化は、火山の表面活動に先行して現れることが多い。

2003 年 7 月 10 日に大規模な土砂噴出があり、8 月中旬には火山性微動も観測された。それに対応して 7 月 31 日には  $2598 \pm 1026$  ton/day の高放出量が記録され、これは 1989 年の活動期や 1992 年 11 月の火孔の開孔前と同等レベルである。放出量のピークは 2003 年 7 月 31 日以前にあった可能性が高い。

2003 年 9 月上旬からは孤立型微動の発生回数が増加し、湯溜まりの減少傾向が顕著となっているが、二酸化硫黄放出量は減少傾向である。

2004 年 2 月後半から孤立型微動の発生回数が減少しているが、逆に 3 月中旬からは火山性微動が連続して発生するようになっている。これに対応するように 2004 年 2 月 9 日に  $604 \pm 109$  ton/day まで減少していた二酸化硫黄放出量は 4 月 15 日には  $957 \pm 174$  ton/day とわずかながらも増加している。このことから、現在は地下のマグマ活動が活発傾向に転じている可能性があり、今後も注意深い監視態勢が必要と考えられる。

\*松尾のり道・松島 健・清水 洋・福井理作・太田一也